

	団体名	金額
提 案 の 概 要		
1	NPO POPOLO (ポポロ)	249,900
<p>生活困窮者の為のフードバンク事業 増え続ける生活保護世帯、単身世帯高齢者18,892世帯、ひとり親と子の世帯7,584世帯（H17国勢調査）、静岡市に生活をする路上生活者56人（厚生労働省ホームレス実態調査H21年調べ）の中に隠れている生活保護受給者予備軍（生活保護水準のボーダーライン上もしくはライン以下にいる方々）に、製造、輸入、卸売の食品業者や、スーパーや販売小売店、農協や農家、静岡市民などから安全に食べられる食品を寄贈として受け、生活困窮者が相談に訪れる生活支援課および、緊急一時貸し付けを行っている社会福祉協議会と連携を取り、食糧支援を求める世帯や福祉施設に食品を提供することにより以下の効果を狙う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、生活保護世帯増加の防止 2、生活保護費の抑制 3、災害時の食料確保 <p>双方の役割として以下の提案をする 行 政：生活保護申請をしなくて自立可能な方の紹介、場所の提供や広報 NPO POPOLO：食料の管理、提供や運営事務、広報</p>		
2	NPO法人 静岡団塊創業塾	236,250
<p>「団塊世代の地域デビュー」推進プロジェクト 静岡団塊サミット（市民・行政・企業がみんなで一緒に考えよう！） NPO法人 静岡団塊創業塾は、退職後の暮らしに不安を感じている人、社会貢献したいと考えているシニア世代に対して、以下のような静岡団塊サミット開催することで、市民活動・行政・企業の知恵や情報を集約し、課題解決に向けたきっかけ作りをしたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の介護・医療費の削減を目指す行政（静岡市） ・団塊世代の体験の活用や消費動向を知りたいと考える企業 ・社会貢献をしたいと考えているシニア <p>が一堂に会し、シニアライフアドバイザーの松本すみ子さんの講演を聞くことで、現状の課題解決のためのヒントを得ることができる。その直後のワークショップでは、市民・行政・企業が本音や知恵を出し合い、課題解決に向けてのニーズとシーズを確認し合う場としたい。</p> <p>プランの発表の機会などを経て、将来的には、そこから生まれたマッチング企画立案や運営に進めることを夢見て、シニア世代が生き生きと活動する明るい社会作りをめざす。</p>		
3	サークルOPPO	249,375
<p>野良猫の「TNR活動」及び「地域猫活動」推進事業 静岡市では飼育放棄された猫や野良猫がガスで殺処分され、交通事故等によって路上死する猫を合わせると年間4,500頭の猫たちの命が奪われています。 また、野良猫や飼い猫の外飼いによる庭・畑荒らし、糞尿、鳴き声と無責任な餌やり等により、地域や公園では近隣住民間のトラブルとなっています。 この猫問題を解決する方法は、飼い主が猫に不妊手術を行い、室内で飼育する、猫を捨てさせない指導をすること、野良猫に対して不妊手術をする「TNR（捕獲、手術、放す）活動」を推進し、これ以上、野良猫を増やさず減らすことが必要です。 手術して繁殖しない一代限りの野良猫を地域の公園等で自治会と地域のボランティアが協力して餌やり、糞尿の始末等の管理をする地域猫活動及びTNR活動を持続的に実施できるように指導・援助を行政と共に行う事業です。</p>		
4	NPO法人教育活動支援の会	246,750
<p>学校支援事業並びに地域教育支援事業の推進 家庭に問題のある子や生育歴に問題を抱えている子が増えてきている。たとえその障害をどんなに大きく背負っていたとしても、一人の人間としてひとりの子どもであることには変わりはないという教育姿勢に立ち、豊富な教育経験のある私たち支援者は、一人ひとりの子どもに心から満たされた愛を注いでサポートすることが事業の基本姿勢としている。 そのため次の2つの柱を中心に事業を推進する。 （1）学校支援事業 学校、教育委員会の要請に応じて、本会のバンク登録されている退職教職員を派遣し、担任と協力して直接支援活動を行う。 （2）地域支援（教育相談）事業 江尻生涯学習館と共催（場所の提供）で、地域の子ども、保護者の子育て相談、生徒指導上の相談を実施。</p>		

	団体名	金額
提 案 の 概 要		
5	特定非営利活動法人 フードツーリズム研究所	249,900
<p>「ひとつの静岡」づくり：農村体験をキーワードに「むら」と「まち」の子供間交流をはかろう！</p> <p>静岡市の山間部では、高齢化による労働力不足、後継者問題などによって、地場の農業が危機に瀕しています。わたしたちは、この現状を憂い、山間部の農業を元気づけたいと考えております。そのために必要なことは、まず、農村と都市部の人たちとの交流、とくに将来的なことを考えれば「子供同士」の交流を深めることが大切であると考えます。そこでわたしたちは、「まち」の子供に農村体験をしてもらい、「むら」の子供や山間部の農村の子どもたちや農業者との「こころとこころ」の交流を深める」事業を提案いたします。山間部の農村の子供たちや農業者と都市に住む子供たちとの交流を深めることは、静岡市民にとって「ひとつの静岡」として郷土愛を高めることにもなります。そして、都市部の子供たちの家族のなかで、週末農業を始めたい、農作物について知識を深めたい、等、農村の問題に向き合い始める人などが出てきてくれることが目標です。</p>		
6	キャットレスキュー 静岡ねこの会	249,060
<p>地域猫活動モデル地区支援事業</p> <p>静岡市内では最近、猫による鳴き声や糞尿被害など環境被害から、時には人間同士のご近所トラブルになっていることも少なくなく問題となっています。</p> <p>私たちキャットレスキュー静岡ねこの会は、不幸な猫を少しでも減らしていきたいと活動を始めました。そこで、問題となっているのは、無秩序な餌やりや置き餌、猫の遺棄などです。私達はこの問題を解決するためには、行政と、私達ボランティア、そして市民が役割分担して対応することが必要であると感じています。今回このパイロット事業において行政が課題として取り上げた地域猫活動を通して、私達ボランティアと、自治会、市が連携し、静岡市として新しい試みが出来るお手伝いが出来ればいいと応募しました。</p> <p>既に、静岡市は飼い猫や、野良猫の餌のやり方には、指導や啓発を始めているようですので、今後、猫の被害に悩んでおられる自治会の方のお手伝いをして、地域猫活動が静岡市に普及すればと考えております。</p>		